

## 新年のごあいさつ

代表取締役社長  
山本 陽次



## 明るく元気な活動を！！

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、爽やかな新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。



お陰さまで昨年は、創業して45周年、JBグループの一員として5周年を迎えることができました。長年に亘ってご指導いただきましたお客さま、ご支援いただきました関係者の皆さまに、改めて感謝をし、厚く御礼を申し上げます。

昨年の夏から創刊しました「そるねっつつうしん」も、第6号になりました。お客さまへのメッセージ、弊社が取り組んでいる主要なソリューション、イベント・地域交流・清掃のCSR活動、社員や職場紹介などの、日頃の活動を、お伝えさせていただいておりますが、これまでの1～5号では、ご好評を頂いております。これからもお客さまや関係者の皆さまのお声も伺いながら、継続して参ります。

事業の環境は、大変に厳しい中にはありますが、こんな時こそ、明るく元気な活動を、社員のひとり一人が心掛け、グループとの連携を深め、お客さまへお届けさせていただくサービス品質を高め、「環境モデル都市・北九州を拠点にするIT企業」として、少しでも相応しい活動を展開して参る所存です。

次の50周年に向けて、しっかりとした歩みを始める一年を目指します。今後とも変わらぬご愛顧と、ご指導を頂きますよう、お願い申し上げて、新年のメッセージとさせていただきます。ありがとうございました。





## アクションのスピードUP

取締役 上級執行役員  
松岡 信行 (営業統括担当)

旧年中は格別のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。  
本年は、一昨年から取組んでおります『変化への挑戦  
～ SOLNETブランド価値の向上』を目標に掲げた活動を、  
更に加速していきます。 重点施策としては



- ① 得意技のアセット化とマーケットへの見える化の推進
- ② ソリューション提案力の強化

です。中でも、得意技の一つであるチェンバースパックを中心とした公益法人  
シリーズの強化、環境ビジネスへの取組みを加速させていきます。さらに、お客  
さまからご評価を頂き「信頼される」→「頼りにされる」→「任される」という  
ステップアップを目指す為、関連部門との活発なコミュニケーションと情報の共  
有、そしてアクションのスピードUPを図り、日頃の活動品質を高めて参ります。



## 達成・成長・成功に向けて

執行役員 事業部長  
重岡 徳史 (第一ソリューション事業部)

みなさま、あけましておめでとうございます。  
今年は中期計画最終年であり、その達成に向け気持ちを  
さらに引締めたところです。 当事業部は、昨年と同様に  
「お客さまのNO1パートナーを目指して！」を指針とし、  
以下の取組みを積極的に推進していきたいと思ひます。



一つは、「SPEAK-IPA版(※1)」を活用し、システム開発・保守プロセスの評価  
～ 改善 ～ 実践のサイクルを継続的に行います。次に、お客さまとのタイムリー  
なコミュニケーションを心掛け、さらに意思疎通が図れるよう努力して参ります。  
そして、これらを着実に実行することで最善なソリューションを高い品質でお届  
けさせて頂くことを目指します。

微力ではございますが、お客さまの成功のため頑張っていきたい  
と思ひます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

※1：ソフトウェアプロセスの供給者能力判定及びアセスメントキット-IPA版





## 自らマインドで継続的に

理事 事業部長  
小田 秀実 (第二ソリューション事業部)

新年おめでとうございます。

私たちは今年も、お客さまの成功に貢献できるように、  
確かな技術でソリューションをお届けします。

昨年よりIPA(※1)のご協力のもと、プロセス改善の新たな  
手法である「SPINA<sup>3</sup>CH(※2)自律改善メソッド」の習得を  
進めています。今年は特に、上流工程(要件定義・設計)にフォーカスし、自ら  
マインドで継続的に改革を進め、更なる品質の安定・向上を進めます。

また、従来から進めてきました“生産管理”に加え、“医療分野”を強化推進し、  
地域のお客さまへより確かなソリューションをタイムリーにご提供します。更に  
J Bグループ各社との連携も深め、お客さまへのご支援を強化して参ります。

2013年の私たちの活動にご期待ください。

※1：独立行政法人情報処理推進機構

※2：当事者が主体的にプロセス改善を推進するためのガイド・支援ツール

(Software Process Improvement with Navigation, Awareness, Analysis and Autonomy for Challenge)



## お客さま満足の拡大

理事 事業部長  
三原 昌章 (サービス事業部)

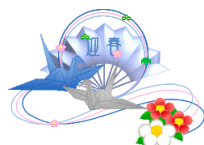
瑞祥新春

旧年中は大変お世話になりまして厚く御礼申し上げます。  
昨年度の当事業部は、サーバー統合／仮想化ソリューション  
の展開を中心に、実績を重ねて参りました。又、新しい商品  
としてLCM(LifeCycleManaged Service)にも取組み、  
受注に繋げる事が出来ました。

今年はこれらのソリューションに更に磨きを掛け、より付加価値の高い商品に  
して提案を拡げて参ります。

弊社の商品／サービスの御提供を通じて、お客さま満足の拡大、業績の拡大に  
貢献出来ますよう、微力ながら全力で取組んで参ります。

今年も昨年と変わりませずご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。





# 今年も『環境のソルネット』として ITによる環境負荷低減への取組みを ご提案してまいります！

あけましておめでとうございます。

昨年は、『環境ソリューション推進室』発足元年として、産業廃棄物処分企業さまの適正処分をご支援するITソリューションサービス『**GreenPlanet Pack**』や、お客さまのIT資源の「ムリ・ムダ・ムラ」の解消を実現するITインフラソリューション『**Green Infra Solution**』を、リリース致しました。そして、10月には、**エコテクノ2012**に出展し、これらの取組みを広くご紹介させていただきました。

今年も、環境をテーマとした展示会などで、『**GreenPlanet Pack**』をはじめとするソルネットのITソリューションをもっと知っていただき、環境企業様にITによる環境負荷低減のご提案をしてまいります。

その2013年の第一弾として、北九州ビジネス交流会に出展いたします。

## 北九州ビジネス交流会**2013**

2013.**2.7**[木] 10:00~17:00

西日本総合展示場 新館 (入場無料)

### <展示内容>

産業廃棄物処分企業様向け『**GreenPlanet Pack**』

公益法人様向け『**公益法人シリーズ**』 など

みなさまのご来場を、心よりお待ちしております。





## お客さまの視点で！

皆さま、こんにちは！ プランニンググループの安藤です。

私たちは、弊社のフォーカス・ソリューションの一つである「プラントエンジニアリングシリーズ」の担当として、プラントエンジニアリング事業のお客さま向けに、システム化の検討・計画段階のご支援をさせていただいています。

現在の主なお客さまは、新日鉄住金エンジニアリング様及び、グループ会社様で、日本のみならず、東南アジアを主な海外事業拠点としてグローバルに展開されています。

具体的には、お客さまのもとで培ってきた知識や経験、専門のIT知見をベースとし、お客さまのIT部門／利用部門の視点にたって、様々な角度から「真の課題」の抽出と解決に向けての「最適なソリューション提案」を行っています。



左から鈴木さん、田尻さん、筆者

これからもお客さま視点に立って物事を捉え、活動することを基本スタンスとし、メンバー丸となってお客さまとのコミュニケーション品質を高めながら勇往邁進して参ります。 宜しくお願いいたします！

(エンジニアリングソリューション部 安藤 利一)

### グループ紹介

メッセージ：これからの決意表明について

#### 田尻 和郁 (グループリーダー)

ITによる解決策のほか、業務プロセス見直し等もご提案できる「超上流のスペシャリスト集団」を目指し、様々な立場のお客様とのコミュニケーション品質向上に重点を置き、活動しています！

#### 安藤 利一 (海外担当)

お客様に感動を与える価値（サービス）をご提供し、「お願いして良かった！」と言われることを目指します。

そのために、常識や慣習にとらわれず、課題解決の可能性を追求し続けます。

#### 鈴木 智和 (国内・関連会社担当)

日々、お客様のこと（事業や業務、文化等）をより深く理解し、お客様事業への貢献が何かを追求し続けて、研鑽を積んでいます。

最近はビジネスアナリシス（BABOK）や統計学にハマっています！





## 喜びを分かち合い、ステップアップ

お陰さまをもちまして、昨年弊社は創立45周年を迎えることができました。

通常、12月には「大忘年会」と題して一年の労をねぎらい、翌年への英気を養おうと開催しております。しかし、今回は、その目的を変え、創立45周年を慶ぶと共に、来る50周年への新たな誓いを祈念するため「株式会社ソルネット～創立45周年を祝う会～」として開催いたしました。また、弊社が2007年にJBグループの一員となって5周年にもなります。最初の節目ということで代表者にも参加頂き、総勢約180名の熱気が会場にあふれていました。

この祝う会は「友和会（社員の親睦会名称）」が全面的に企画・運営し、社員の手作り企画が盛りだくさんでしたので、少し紹介させていただきます。

### 鏡開き

弊社では数年ぶりの実施となります。参加者全員で「エイエイ、オー！」の掛け声で勢よく樽を開き、華やかに会が始まりました。

### ゲーム大会

恒例の福引大会に加え、事業部対抗のゲームを企画しました。1分間足踏みをし、歩数を競うのですが、意外に白熱した戦いとなりました。結果は、サービス事業部が勝利！？

### 『博多祝い唄（めでた）』と『博多手一本』

根っからの博多っ子(?)のサービス事業部長 三原さんが、メンバーを引き連れて熱唱です。北九州では珍しい催しなので、「博多手一本」が揃わないのではと心配していましたが、心を一つにすることができました。何事にも、社員一丸となって取組む社風が表れ、心なし、皆の気分が晴れやかになっているように感じました。





## 🎁 記念品

友和会がデザインしたオリジナルラベルで飾られた一合瓶に、会の初めで開いたお祝いのお酒を一つ一つ心を込めて準備しました。そのお酒には、ほのかな樽の匂いが残っており、いつまでもその余韻を感じることができました。



これらの企画も然ることながら、社員同士、或いは来賓者を囲んでの話も、大変盛り上がり、会場の彼方此方でみられる“たくさんの笑顔”がとても印象深く、すばらしい「祝う会」であったと思います。

今後も、社員一丸となってSOLNET Valuesの実践に邁進し、来る50周年には、弊社を育てていただいているすべての方が一堂に会して、その幸せを皆さまと共有できるような会を催せるように頑張ってお参ります。

(事業管理)

## ◆ 45周年を祝う会を終えて・・・

### 伊規須 節子さん

(事業管理 品質マネジメント)

25周年の社史編纂に携わった私が、45周年でも進行の一部をお手伝いできたことは感慨無量です。

入社当時、社名変更と共にソリューション事業に進出し、何をするにも初めてであったため、全社一丸となって取り組んでいたことなどが、結果として社員の強い一体感を醸成してきたのではないかと感じています。

その社風が、当会の準備を担当した若手メンバーにも引き継がれていることを感じ、大変うれしく思いました。

### 春田 昌徳さん

(第二ソリューション事業部 第一ソリューション部)

私にとって、社員が一同に会する社内イベントは大切なコミュニケーションの一つです。今回、同期メンバーとの情報交換や、今年一年お世話になった先輩後輩への感謝を直接伝えることができ、日頃交流のない社員とも絆を深める貴重な時間になりました。

私は45年の道のりの途中から歩み始めましたが、これからのなお会社の歴史を歩いていくため、この結束力・団結力を大切にしていかなければならないと改めて感じた、祝う会でした。



## 大事に育てていただいた会社です

今号の準備作業の中で、私の知らなかった弊社の沿革について話を聞くことができました。約30年前、ソリューション事業という未経験の分野に進出した時のことは、特に印象的でした。一般のお客さまへの営業を初めて行うことになり、情熱はあってもノウハウはない中、様々な場面でお客さまに助けをいただいて、少しずつ方法を確立することができたそうです。またソリューション開発に必要な知識については、当時の親会社から、きめこまかい教育など全面的な支援を受けることができたとのことで、どちらも長い年月の間に少しずつ形を変えながら、弊社事業の重要な基盤となって今に至っていることは間違いありません。

また、今も様々な立場から、愛着をもって弊社を温かく見守ってくださっている方がたくさんいらっしゃるということも聞き、とてもありがたく、心強く感じました。



今回の話を通じ、「会社」は血の通った人間と同じで、弊社はまるで子どもを育てるのと同じように、見守られ、支えられ、愛情を注がれることによって続いてきたのだということを知ることによって、弊社がたどってきたこれまでの歩みを、誇らしく感じるようになりました。これまで支えてくださった皆さんへの感謝を忘れず、今後さらなる成長を果たすことでご恩返ししていきたいと強く思いました。 (Y.N)

### 編集後記

1月7日 北九州市若松区「恵比寿神社」で、営業メンバーを中心とした有志約30名で、「今年も頑張るぞ!」との決意表明と、一年の無事を祈願して参りました。そこで熊手を購入したのですが、熊手の大きさによって、かき寄せる「爪」の向きが、“上向き”と“下向き”と異なっていることを発見!! 問い合わせしてみたのですが、理由は解りませんでした。「飾るときの配慮かな?」と私なりに想像してみましたが…。 どなたか理由をご存知ではありませんか? (K.K)

